

「研究の視座」

## 技術の国際標準化に関する各国の戦略分析

21世紀政策研究所 研究主幹

平松幸男（大阪工業大学教授）

日本企業の国際競争力を高めるための手段の一つとして、技術の国際標準化の重要性が注目されるようになってきた。技術の国際標準化により、市場が国内からグローバル市場へと拡大される。近年、企業はもはや国内市場だけを見ていたのでは発展は望めずグローバル市場における競争を余儀なくされる。グローバル市場における企業の競争力を高める上で技術の国際標準化はどの様に機能するのであろうか。

国際標準化とは、製品やサービスの規格を各国の間で合わせることであり、これらの相互操作性を実現することである。これによりその製品やサービスの適用範囲が広がるため市場が広がることになる。1990年頃までの時代では、ISO、IEC、ITUといった国際標準化機関において世界で唯一の規格を目指して標準化に比較的長い時間をかけていた。このため、製品やサービスの開発が最も遅い国や企業のペースに合わせて標準化が進むところがあり、市場が広がっても競争相手も増えるため企業から見て標準化活動に積極的に参加する利点が必ずしも明確とは言えなかった。

しかし、それ以降の時代になると技術開発のスピードが格段に速まり、それに伴い標準化にもスピードが求められるようになった。国際標準をリードしようとする民間のフォーラムやコンソーシアムが技術分野毎に次々に設立され、市場形成・獲得を目指す様になった。時には同一技術分野に複数の標準化組織が競争する場合も出てきた。つまり、標準化も競争の時代になった。このような時代になると、標準化をリードし早期に市場を獲得した企業は先行者利益を享受することができるため圧倒的に有利になる。逆に標準化で立ち遅れた企業は自社製品やサービスの市場導入に遅れをとることになり、市場を失うことになる。

産業分野における競争力の源は技術力であり国際標準化の源もまた然りである。しかし、技術が優れているだけでは国際標準がとれないのもまた事実である。そのような例は過去にいくつも存在する。技術の国際標準を獲得するためにはこれを推進する国や企業の戦略が必要となる。

従来、技術の国際標準化において常に日・米・欧が対峙してきた。最近ではこれに中国、韓国が加わり、5極化の様相を呈してきた。本来アジアが一つにまとまり、米欧と対峙することが戦略上望ましいように思えるが、現状ではそのような状況にはなく、むしろ、アジアの中でも主導権争いが起こり始めているように見える。このような状況になると日本としては従来にも増して戦略的な対応が求められる。

本研究プロジェクトは、今後日本が取るべき技術の国際標準化戦略を明確にするため、いくつかの典型的な技術分野について、欧米や中国、韓国の国際標準化戦略を分析することを目的とする。このため、メンバーの中に、ISO、IEC、ITU等の国際標準化の場で長年ご活躍されてきた専門家を多数お招きしている。また、来春には現在国際標準をリードしているグローバル企業の代表者を招いたシンポジウムも計画している。このような、取組みを通して、技術の国際標準化について現在、世界で何が起きているか、また、日本として今後どの方向に進むべきかについて何らかの有益な提言を行えれば、と考えている。

以上